

夢サラダ Vol.68

2024.5.1 発行

市民活動の拠点を目指しています。
「今治市民活動センター」
指定管理者：(特非)今治NPOサポートセンター
【お問合せ】TEL/FAX 0898-25-8234
E-mail imanpo@nifty.com

災害から 命と暮らし を守る

🌱 しっかりとした備えと知識！行動計画づくり

大規模災害時、すぐに公的な支援が受けられるとは限りません。自分の身は自分で守る「自助」、自分たちのまちは自分たちで守る「共助」が大切！頼りになる家族、ご近所さんを交え、みんなで助かるために、今、できることを考えてみましょう。

毎年のように発生する異常気象に伴う集中降雨や台風。実際、一度に降る雨の量が 50 ミリ以上の回数は増えており、大雨による災害は他人事ではありません。西日本豪雨時、気象庁や市町から様々な情報が発信されましたが、逃げ遅れる人もいました。警戒レベルに応じた適切な行動には心構えと準備が必要です。自分はいつ、どこに、どの道を通って避難するのか確認しておきましょう。

2018 年 7 月に発生した西日本豪雨は、県内に甚大は被害をもたらしました。雨の降り方は年々深刻さを増しており、大雨による災害は決して他人事ではありません。また、今後 30 年で 70%～80%の確率で発生すると言われてる南海トラフ巨大地震など、近く起こりうる災害に備えは待ったなし！一人一人の対応力を高めておくことが重要です。



危険レベルと住民がとるべき行動

警戒レベル	危険度	住民がとるべき行動
5	災害切迫	命の危険 直ちに安全確保！ レベル4までに必ず避難
4	危険	危険な場所から全員避難
3	警戒	危険な場所から 高齢者等は避難
2	注意	自らの避難行動を確認
1		災害への心構えを高める

※国は防災気象情報に合わせ、災害の危険度を5段階に分け、とるべき行動を整理しています。



防災・減災に ドローンが活躍



▲ドローンを入口に、防災・減災に関心を持ってもらえれば…。操縦体験&クイズを通して、児童・生徒へ働きかけるイベント。

災害発生時は、被害状況の情報収集や捜索などが必要です。活躍が期待されるのが、迅速に、かつ離着陸などの場所がコンパクトな機動力あるドローン。今治市におけるドローンを活用した災害対応について「一般社団法人しまなみドローン協会」代表 曾我部敏行さんに伺いました。

ドローン（無人航空機）と言えば、スポーツ中継の空撮や配送に使う実証実験が思い浮かびます。実際に目にする機会はまだまだ少ないですが、今、業界は大きく変わろうとしています。2022 年 12 月、国はこれまで民間のみであったドローンの資格に国家資格を導入。これまで許可されていなかった「有人地帯での目視外飛行」、つまり、人がいる場所で、操縦者がドローンを直接目視しなくても飛ばすことができるようになったのです。この動きに地域貢献への決意を新たにしているのが「しまなみドローン協会」です。業務や趣味でドローンを保有する個人がつながり、2018 年に結成。多種多様な機材の特性や機能への理解を深めると共に、技術力を高める中、要救助者の探索、物資運搬等で災害時に活用できるポテンシャルを認識。西日本豪雨被災地の空撮映像を撮影する等し、関係者との議論を深めてきました。現在、今治市や本州四国連絡高速道路(株)等と協定を結び、定期的な防災訓練が実施できるようになっています。実用化には「地域が一丸となった環境整備、人材育成が鍵」と曾我部さん。行政・企業・市民との役割分担、技術者の育成にまい進しています。



▲「人助けをしたい…」
根底の熱い思いは多彩な関係者を巻き込む力に。

＊「中面に関連記事」＊

今治市市民が共におこすまちづくり事業レポート!

今治市を個性的で魅力あるまちにする公益的な活動を支援する「市民が共におこすまちづくり事業」。
2023 年度は8団体により、多様な活動が展開されました。市民が「自分事」としてまちに関わり、今
治市内外の人々を巻き込んだ地域ぐるみの実践の様子をご紹介します。

事業を進める中で活動への理解者を増やしたり、まちの課題を可視化したりする機会とな
ったとの声。暮らしやすい豊かなまちづくりには、息の長い活動が必要！担い手の育成、
体制整備等にまい進する姿は、持続可能な取組みへの覚悟が伺えました。



▲審査の様子
書類審査と公開プレゼンテーシ
ョンを経て採択されています。

NPO 法人すくらむハート

僕たち私たちの考えること 「小さな声を聴いてみよう」Ⅲ

人格と個性を尊重し、支え合う「共生社会」への理解
浸透を目指し、①語り合う場 ②ワークショップ（造
作・絵画）を展開。画家 MAYA MAXX さんを迎え、自分、
そして周りの数限りない
属性の存在に向き合った。
全ての人が輝く社会実現
を目指しポスター等も配布。

▲「自分とは違う状況にある
人もいる」をテーマに語り
合う。多様性が生む可能性
が会場
を包む。

「タオル帽子原画展（タオル人絵本
プロジェクト）」と同時開催した「自
画像」ワークショップ。「自分らしさ」
の再発見・再確認になる作業。▶

一社）しまなみドローン協会

次世代へ繋ぐ 地域防災とドローン

防災・減災に利用で
きる「ドローン」の
理解・普及を目指し、
①座学・ワークショップによる興味喚起、②ドローン
体験会等による人材育成等を進めた。2018 年の西日
本豪雨時の今治市の空撮写真の確認、発災を想定した
操縦体験等を通して、参加
者から防災・減災への積極
的な意見が寄せられた。

▲ドローンの
操縦方法の指導を受ける
参加者。真剣な表情。

▲模擬被災地の
状況調査を体験。人材
の育成への手応え。

海城街 Project

GOODMORNING 8 IMABARI

「まちなかにリビングがあったら!？」そんな未来を創
造しようと、商店街の道路に滞在空間を演出。子ども
が真ん中フェスタとの連携
もあり、親子連れを中心に
年代を超えた市民が憩いの
空間を楽しんだ。継続に向
けての体制構築が課題と、
今後につながるまちなか再
生に必要なしくみを検討した。

▲ハンモックに揺られ
「こんなリビングがあ
ったらな」との声。

▲素敵なテーブル
セッティング!
「一緒にどうぞ」と声をかけあう。

一社）Brave Heart 楽団

第 2 回 今治発 Brave Heart 楽団チャリティコンサート

“偏見や差別のないワンネスな世界へ” そんな思いで
集う団員による定期演奏会。オンラインで世界中から
のエールを受け、ライブがスタート。合唱、吹奏楽等、
多彩な演出に来場者も出演者も、会場全体が共に楽し
むひと時となった。奏でられる音楽は十人十色！
「みんな違ってみんない
い」支援する側、される
側…そんな垣根を超える
ユニバーサルな活動に共
感の輪が広がった。

▲幅広い年齢で結成。「みんな違
って、みんないい」を体現。

▲それぞれの
楽器
を手に。

▲椅子をたたいて演奏！
ドレミパイプは団員の活動
にぴったり。

▲マジックショーや
ミニライブも。

一社）ANT

今治市モルック普及事業Ⅱ

体力や年齢差を超えて楽
しめるユニバーサルスポ
ーツ「モルック」の普及を
目指した2年目の取組み。
○上・中級者向けの講習会 ○第一回モルックカップ
開催。初心者にも分かるよう講習会内容を教材化した
冊子は、地元の愛好者への普及、
競技の定着につながった。

▲憧れの選手を招聘しての練習会には
市外からの参加者も。端的な言葉での
助言に聞き入る参加者。

▲「誰でもわかる」
モルックルール
ブックを配布。
技術の“見える化”
は地元のモルッ
カーに好評。

みかんの会

劇団東演公演『獅子の見た夢』 一戦禍に生きた演劇人たち

コロナ禍から日常を取り戻す中で、豊かな感性を育む
手段として、演劇を上演。戦時中の規制のある中、生
きる権利と平和の大切さを訴える内容。優れた演劇に
触れる機会は来
場者約 250 名に
届き、地域での
上演活動の大切
さを発信できた。

▲「いまばり市民劇場」解散から
半年。「演劇鑑賞の灯 消さない…」
との思いをつなぐ。

▲劇団製作者も来今！一丸と
なって準備が進む。

▲上演後の感涙の見送り。

オーガニックビレッジ倶楽部

オーガニックで優しい まちづくり事業

食と農のまちづくりを長
年推進する今治市におい
て、オーガニックビレッジ宣言の
後押しにつながる①有機農
業全般の勉強会・体験会
②イベント・交流会等を実施し、消費者への理解を
促した。農作業の現場では農家と参加者が双方向に
学ぶ合い、関係構築を進めた。

▲この日は農業 DX の
勉強会。未来へ向けて
学びの内容は多岐に。
啓発冊子も発行。

▲苦労や課題にも向き合い、消費者
から実践者への育ちを支援。

NPO 法人菊馬会

“ホースセラピーとはなんぞや” ホースセラピーの事業化に向けた連携体制の構築

今治市菊間町で 600 年続く伝統文化「お供馬の走り込
み」。永年継続に繋ぐため「ホースセラピー」を事業
化する取組みを進めた。一般
来場イベントでの乗馬や触れ合
い体験と並行し、地元支援者と
連携し、観光資源を活用した
プログラム開発を行った。地
域全体での理解醸成、推進体制
を具体化できた。

▲小ヶ丸広場公園
では子ども達を
中心に乗馬 & え
さやり交流。

▲自然と一体になれる地元の名所
での観光利用を見据えた取組みは
好評。里山、浜辺での危険個所の
確認等、関係者との共有も進んだ。

市民ボランティアが大活躍！ 第 35 回全国健康福祉祭えひめ大会 ねんりんピック愛顔のえひめ 2023

60 歳以上の方々を中心とする、スポーツ・文化・健康と福祉などの総合的な祭典「ねんりんピック」。えひめ大会では、多くの大会ボランティアが大活躍。愛媛県ならではの強みや特長を生かした式典やイベントが大会に花を添えました。愛媛に根付く“おもてなしの心”は大会に参加されるすべての方々へ届き、思い出に残る大会となったことは間違いありません。今治市民の活躍をご紹介します。

今治市から参加！

今治タオル体操愛好会

総合開会式に参加した「今治タオル体操愛好会」の代表 渡辺小百合さんにお話を伺いました。

大会メモ

令和 5 年 10/28(土)～10/31(火)、「ねんりんを 重ねた愛顔えがお伊予に咲く」をテーマに開催。県内全市町で 29 種目の交流大会があり、全国から約 1 万人の選手が来県。今治市では「ソフトボール」と「ダンススポーツ」が盛大に行われました。



「今治タオル体操愛好会」について教えてください。

女性目線のまちづくりとしてスタートしました。地場産品のタオルを使った体操を考案し、普及しています。「タオル 1 本で健康づくり」を合言葉に「出前体操」をしており、その数は年間 150 回！多様な年齢層の市民に親しんでもらっています。



「ねんりんピック」参加への思いは？

「えひめ国体・えひめ大会」(2017 年)の総合開会式に参加した経験があります。愛媛らしさ溢れるアトラクション等で全国から来県される選手や役員等をお迎えする中、今治タオルを使ったおもてなしは好評でした。スポーツ会場では必需品のタオルです。今治タオルの認知度も格段に向上しており、このブランド力をいかし、みんなの「愛顔」をつなぐ大会を支えたいと思いました。



総合開会式に参加されたのですね。いかがでしたか。

1 歳～85 歳の総勢 140 人で参加しました。人生 100 年時代を迎える中、高齢者はもとより、多様な世代の方々が健康長寿を実感でき、世代を超えたつながりが育まれることを目指している大会。この目標は、私たちの日頃の活動理念と一致しています。健康や生きがいを育む点は、スポーツもボランティア活動も共通しています。全国から参加された皆さんとの交流を通して、私たち自身が「愛顔」をもらい、活力を得ることができました。



▲タオル生地を身に包んで！！今治タオルの魅力を伝えようと考案。



▲「生涯現役」を理念としている団体ならではの「今治パワー」の心意気が会場を包む！



▲「タオル体操」続けてね～。「健康寿命」を願ったメッセージ。

今治タオル体操愛好会 会員募集



地場産品・タオルを使った健康づくり！今治タオル体操と一緒にしましょう！！
日時：毎月第 4(水)18:30～21:00 頃 会場：今治市別宮公民館(大正町 4-2-7)
費用：参加費 1 回 100 円
問合：今治タオル体操愛好会(渡辺)Tel 090-7574-8671



▲年齢層がバラバラで練習時間の確保に苦勞。それでもリハーサルでは息もバッチリ。